



一般財団法人日本ITU協会 創立50周年を迎えて

「皆様と50年 次の50年へ！」 — Towards next 50 years! —

1971年9月1日に創立された一般財団法人日本ITU協会は、ITUジャーナル2021年9月号発行日に、50周年を迎えます。これもひとえに、半世紀にわたって多くの皆様に支えられたおかげです。心より御礼申し上げます。

この記念すべき日に、新たに私共の役目を認識し、これからの50年に向かって歩んでまいりたいと存じます。

本号は、創立50周年記念記事をお送りいたします。

ITUジャーナル編集人



一般財団法人日本ITU協会 理事長 やまかわ 山川 てつお 鉄郎

一般財団法人日本ITU協会は1971年9月に国際電気通信連合 (ITU) の活動への協力などを目的として財団法人日本ITU協会として創立され、今年創立50周年を迎えることができました。これもひとえに半世紀の長きにわたって当協会を支えていただいた総務省、賛助会員各位や職員の皆様など多くの関係者のおかげです。この機会にあらためて深く感謝申し上げます。

感染拡大が続く新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) によって生活は大きく変わり、テレワークやテレビ会議、オンライン授業などICT (情報通信技術) を活用したライフスタイルが急速に普及しました。デジタルトランスフォーメーションの進展によってICTは今後より一層重要な社会基盤となり、持続可能な地球環境や国際社会の構築そして人類共通の目標であるSDGsの実現に大きく貢献していくでしょう。当然ながら、周波数の分配や電気通信技術の標準化、開発途上国における電気通信分野の開発支援などの活動を行うITUの活動はますます重要になっていくと考えられます。

個人的な話で恐縮ですが、郵政省入省直後でまだ若手といわれていたころ、協会の出版物 (「国際電気通信連合と日本」や「ITU研究」など) が電気通信行政の教科書のようなものでした。濱田純一先生 (当時東京大学助手・助教授) のメディア論や、勝部日出男さん (当時KDD) の米国通信制度論 (VANなど) はよく覚えています。

その後、国際政策課長を仰せつかり協会とのご縁が復活したのは、内海善雄ITU事務総局長 (当時) がWSIS (世界情報社会サミット) の開催に全力を注いでおられたことです。国際部長だった2007年には初めてITU本部の理事会

に出席しました。とにかく広い会議場に参加国の多さ、毎日の各国とのミーティングで、そして近くの和食レストランでいただく天ぷらの衣の厚さが印象的でした。しかし、総務審議官のときに全権委員会議 (2010年) でグアタラハラに出張して、ジュネーブの天ぷらは実はかなりレベルが高かったことを知りました (ちなみに今では少なくとも欧州の和食の水準は素晴らしいと思います)。

たまたま最近、濱田先生 (元東大総長・名誉教授) や勝部さん (株ナレッジカンパニー代表取締役CEO) にお会いする機会があって、昔読んだ協会の出版物を思い出していたときに、この原稿を書く機会をいただいた次第です。よくできたお話のような、何かのご縁のような。

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) により、ITU関係の会議も基本的にテレビ会議になっているようです。しかし、5Gさらには6Gの実現に向けたIMT用周波数の拡大やIoTのセキュリティ管理、さらには量子通信の実現に向けた量子鍵配送 (QKD) 技術の標準化など、ITUを舞台に検討しなければならない戦略的に重要な課題は山積し、世界は感染拡大のなかでも着実に動いています。2022年6月にはITUの歴史上はじめて、WTDC (世界電気通信開発会議) がアフリカ大陸 (アジスアベバ) で行われる予定で、1959年以来一貫して理事国としてITUを支えている我が国には、デジタルトランスフォーメーションによるSDGsの実現に向けてさらなる貢献が期待されています。当協会も、ITUを重要な戦略の場とお考えの皆様の期待に応えるべく、より一層努力していきます。今後とも皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。